国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

お 知 ら せ

記者発表資料	平成３０年７月１７日 平成３０年７月１８日（訂正）
配布日時	１６：３０ １４：３０（訂正）

■同時発表先：島根県政記者会
出雲市政記者クラブ

平成３０年７月豪雨に対する（訂正）斐伊川放水路と尾原ダムの効果について【速報】

当事務所が平成３０年７月１７日１６時３０分に記者発表しました「平成３０年７月豪雨に対する斐伊川放水路と尾原ダムの効果について【速報】」について、別紙の「防災操作」に関する説明文を訂正いたします。
なお、訂正箇所も含めた一連の記者発表資料を差替え資料として添付しております。

＜問い合わせ先＞
国土交通省　中国地方整備局　出雲河川事務所
副所長(技)　沖田（おきた）　宏之（ひろゆき）
【担当】管理第二課長　飯田（いいだ）　博英（ひろひで）
０８５３－２０－１７５４（直通）
〒693-0023　島根県出雲市塩冶有原町 5-1　電話：0853-21-1850(代表)
ホームページＵＲＬ：http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/

訂正箇所（見消し）

尾原（おばら）ダム及び斐伊川（ひいかわ）放水路（ほうすいろ）の整備効果

速　報

〇平成30年7月5日から8日の降雨において、

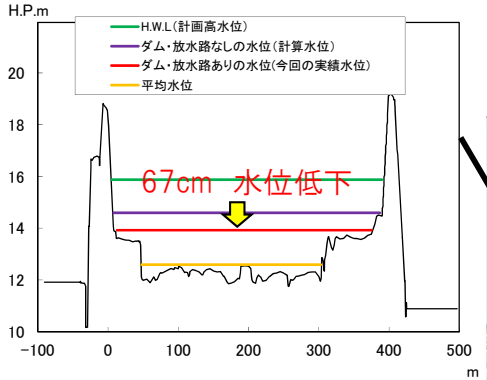
・斐伊川水系尾原ダムでは、適切な防災操作を行うことで下流の河川に流す水量を最大流入量時で約70m3/s低減し、ダム下流の木次観測所地点で、ピーク水位を8cm低減させる効果があったものと推定。

・斐伊川放水路では、最大約590m3/sの分流を実施し、尾原ダムとあわせてピーク水位を灘分地区で87cm、宍道湖湖心で26cm低減し、宍道湖の水位が氾濫注意水位を超過するのを防ぐ効果があったものと推定。

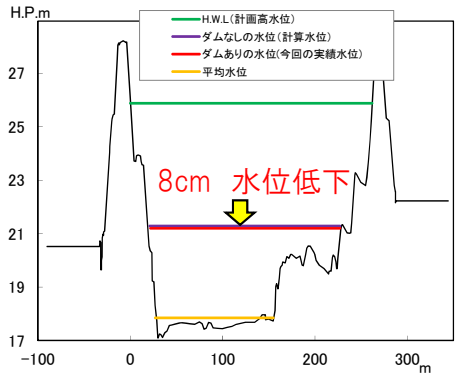
※「防災操作」とは、~~「防災操作」とは、ダム下流の更なる被害軽減を行うため、ダム下流河川の水位等の状況に応じ、今後の予測降雨量、ダムの残りの貯水量等を勘案しながらダムの貯水量を減じる操作です。ただし,今後、今後多くの降雨が予測される場合は実施できません。~~大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池内に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

観測所名	ピーク水位低下量(cm)
木次（きすき）	8 cm
上島（かみしま）	8 cm
大津（おおつ）	67 cm
灘分（なだぶん）	87 cm
宍道湖（しんじこ）	26 cm

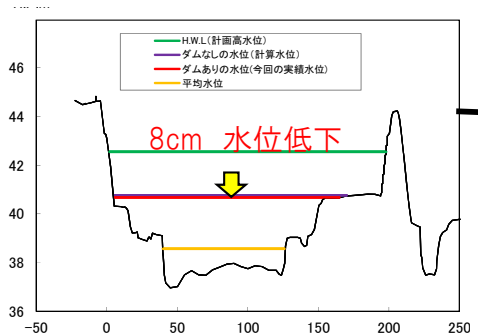
大津

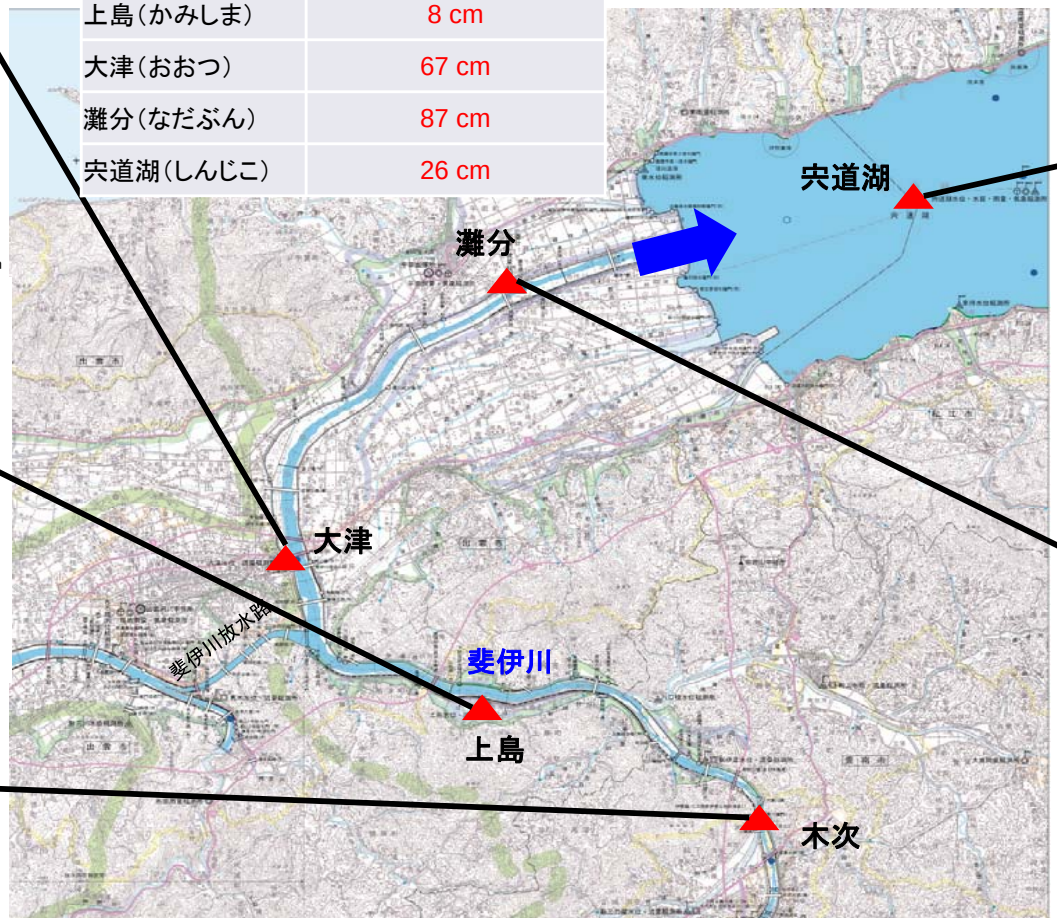


上島

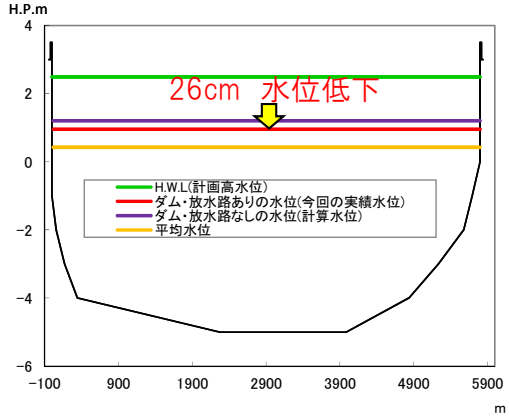


木次

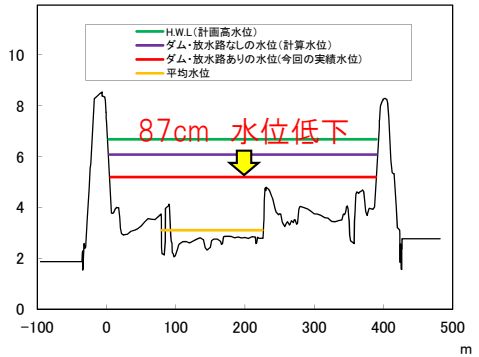




宍道湖



灘分



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。
ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。

国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

お 知 ら せ

記者発表資料	平成３０年７月１８日
配布日時	１４：３０

■同時発表先：島根県政記者会
出雲市政記者クラブ

平成３０年７月豪雨に対する 斐伊川放水路と尾原ダムの効果について【速報】

平成３０年７月５日から７日にかけて、梅雨前線の停滞による影響で、斐伊川流域では降り始めからの流域平均総雨量が227mmを記録し、氾濫注意水位を超過する出水となりました。

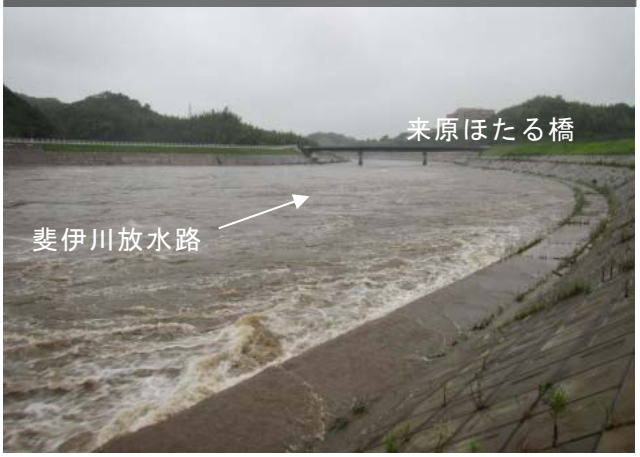
今回の出水に対し、斐伊川放水路と尾原ダムを運用することにより、斐伊川下流（灘分地区）で87cm、宍道湖で26cmの水位低減効果がありました。

なお、斐伊川放水路への分流は平成２５年６月完成以降７回目となります。

※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

斐伊川放水路分流堰付近（7/7　6:10 時点）

斐伊川放水路開削部（7/7　6:10 時点）



＜問い合わせ先＞

国土交通省　中国地方整備局　出雲河川事務所
副所長(技)　沖田（おきた）　宏之（ひろゆき）
【担当】管理第二課長　飯田（いいだ）　博英（ひろひで）
０８５３－２０－１７５４（直通）

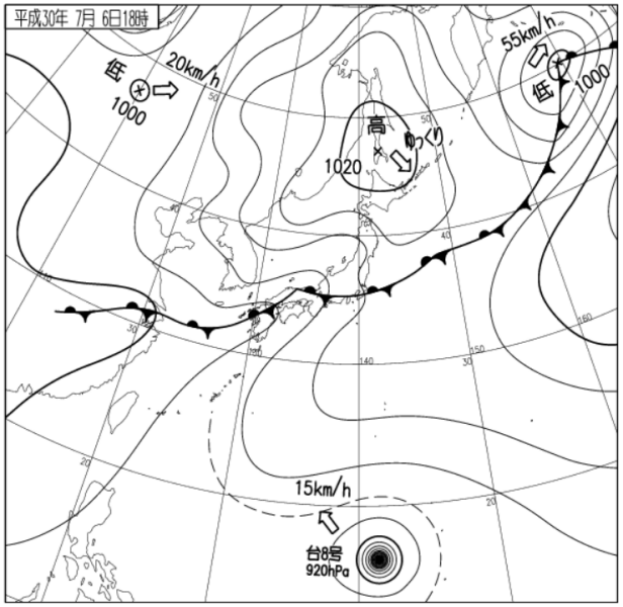
〒693-0023　島根県出雲市塩冶有原町 5-1　電話：0853-21-1850(代表)
ホームページＵＲＬ：http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/

平成30年7月豪雨の出水概要

1. 天気概況

中国地方では、西日本に停滞する前線に向かって、南から流れ込む暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、島根県東部では5日から7日にかけて、ところにより激しい雨が降り続いた。

■実況天気図　（気象庁HPより）

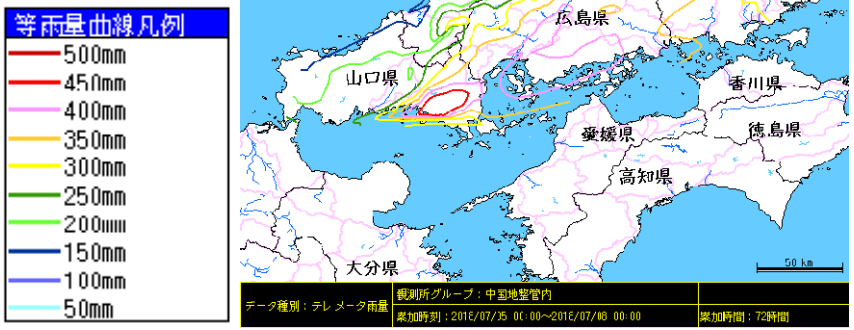


2. 降雨状況

斐伊川流域では5日朝から7日の朝方にかけて断続的に激しい雨が降り、7月5日から8日までの72時間雨量が斐伊川流域平均で207.7mmを記録した。

※降り始めからの総雨量（7/3～7/8）は226.6mm

■等雨量曲線図　（国土交通省作成）



累加時刻:2018/7/5　0:00～7/8　0:00
累加時間:72時間

3. 出水状況

木次観測所（28.4k）

平常時

7/7　1:00

新伊萱観測所（24.1k）

平常時

7/7　1:00

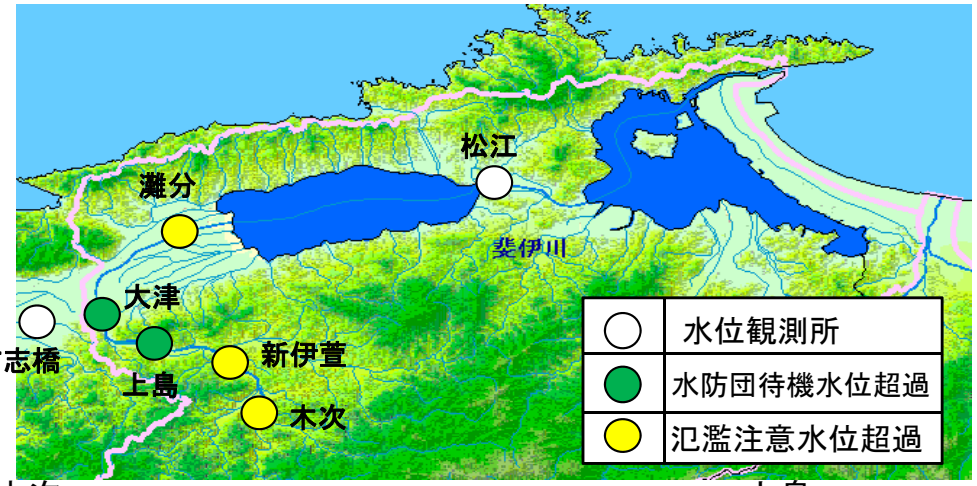
灘分観測所（4.1k）

平常時

7/7　1:00

平成30年7月豪雨の出水概要

4. 各水位観測所の出水状況（国管理）

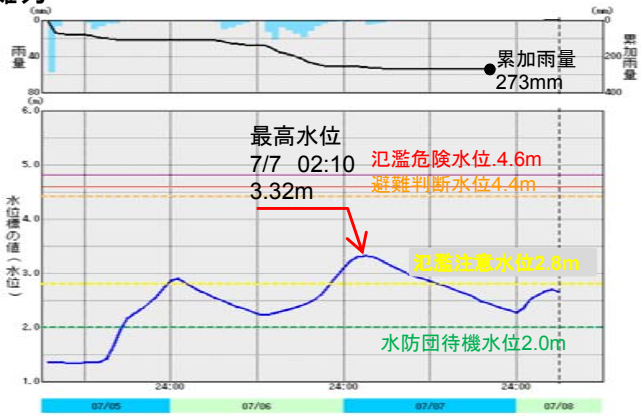


凡　例　計画高水位　氾濫危険水位　避難判断水位　氾濫注意水位　水防団待機水位

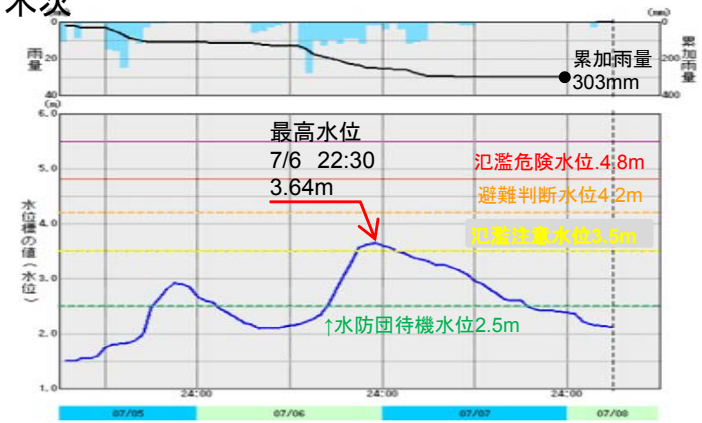
凡　例
雨量
累加雨量
河川の水位

今回の降雨により**氾濫注意水位**を超えた観測所は、**木次、新伊萱、灘分**の3箇所。

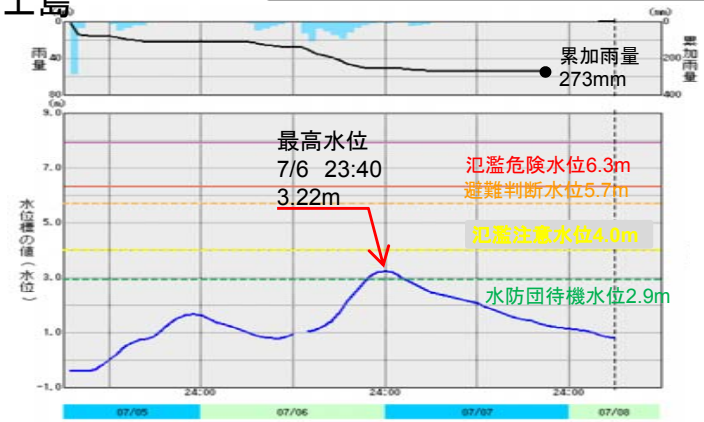
灘分



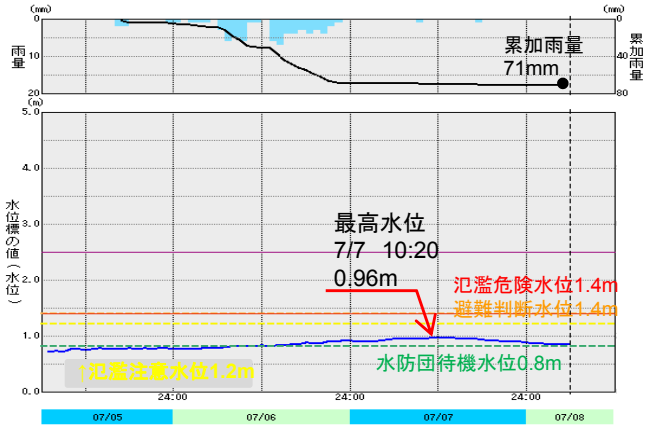
木次



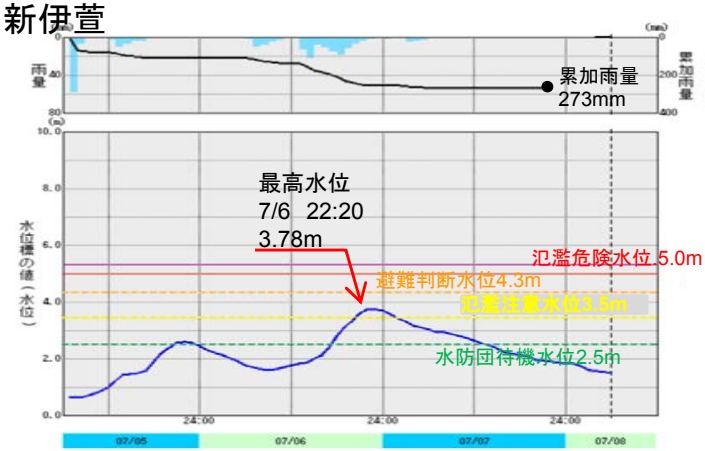
上島



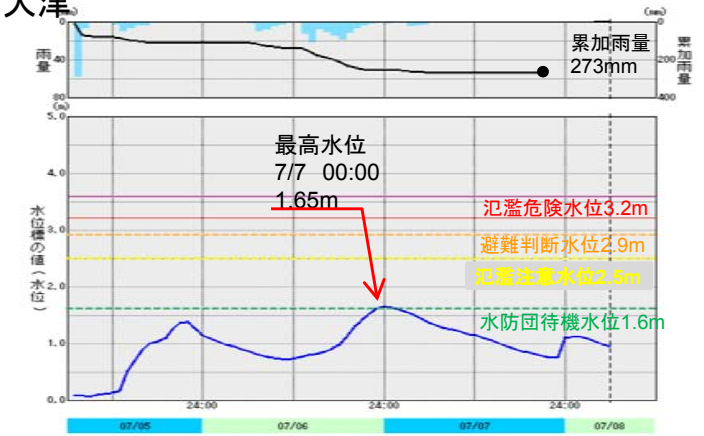
松江（宍道湖）



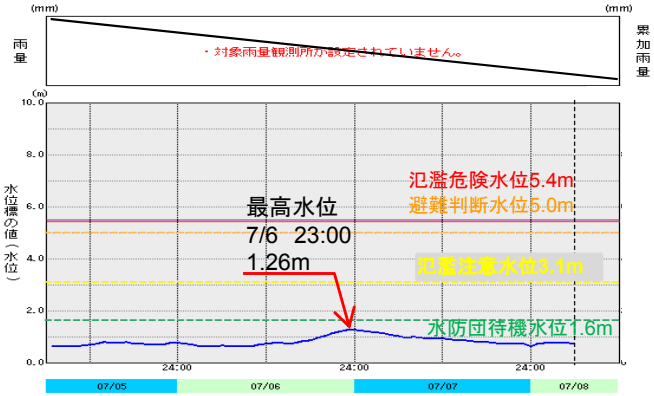
新伊萱



大津



古志橋（神戸川）



平成30年7月豪雨の出水概要

5. 事務所体制履歴

水防時の河川水位（高潮含む）及び尾原ダム，志津見ダム等の状況に応じて、事務所支部において注意体制、警戒体制をとっております。

日時		体制	理由
7月5日	17時10分	注意体制	灘分水位観測所が水防団待機水位（2．0m）に達し、さらに水位上昇の恐れがあるため。
7月6日	20時20分	警戒体制	新伊萱水位観測所の水位が氾濫注意水位（3．4m）に達し、さらに水位上昇の恐れがあるため。
7月7日	13時00分	注意体制	灘分水位観測所の水位が低下し、さらなる水位上昇の恐れがなくなったため。

6. 水防警報発表履歴

洪水や高潮による災害が発生する恐れがある場合に、水防団などに活動の目安となる水位等の情報を提供しました。

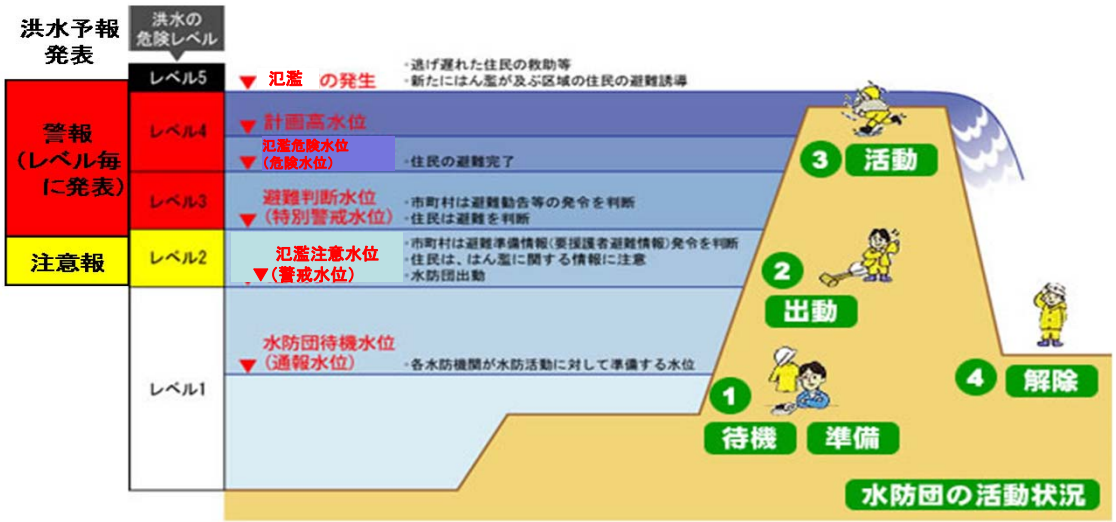
河川名	水位観測所名	待機	準備	出動	指示	待機	解除
斐伊川	木次	7月6日 17時10分	7月6日 19時00分	7月6日 21時10分		7月7日 3時50分	7月7日 19時10分
斐伊川	新伊萱	7月6日 17時20分	7月6日 18時50分	7月6日 20時30分		7月7日 3時40分	7月7日 13時50分
斐伊川	上島	7月6日 21時50分					7月7日 3時30分
斐伊川	大津	7月6日 23時00分					7月7日 3時00分
斐伊川	灘分	7月5日 17時20分	7月6日 20時20分	7月6日 22時20分		7月7日 13時30分	2018/7/8 7時10分
宍道湖	松江	7月6日 18時10分					2018/7/8 7時10分
中海	中海湖心						
神戸川	馬木						
神戸川	古志橋						

7. 洪水予報発表履歴

洪水が発生する恐れがある場合に、気象庁と国土交通省が共同で雨量や水位の情報を周知しており、 この度の出水で斐伊川では、氾濫注意水位を超え、更に水位上昇の恐れがあったため、**斐伊川氾濫注意情報**を発表しました。

予報番号	種類	発表日	発表時刻	河川名
1	新伊萱（雲南市）「氾濫注意水位」	7月6日	20時50分	斐伊川
2	新伊萱（雲南市）「解除」	7月7日	13時15分	斐伊川

参考



尾原ダム及び斐伊川放水路の整備効果

速　報

〇平成30年7月5日から8日の降雨において、

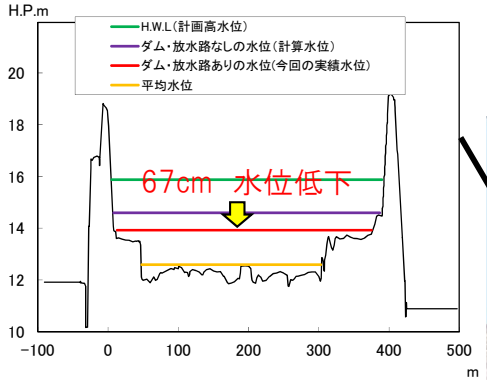
・斐伊川水系尾原ダムでは、適切な防災操作を行うことで下流の河川に流す水量を**最大流入量時で約70m3/s低減**し、ダム下流の木次観測所地点で、**ピーク水位を8cm低減させる効果**があったものと推定。

・斐伊川放水路では、**最大約590m3/sの分流を実施**し、尾原ダムとあわせて**ピーク水位を灘分地区で87cm、宍道湖湖心で26cm低減**し、宍道湖の水位が氾濫注意水位を超過するのを防ぐ効果があったものと推定。

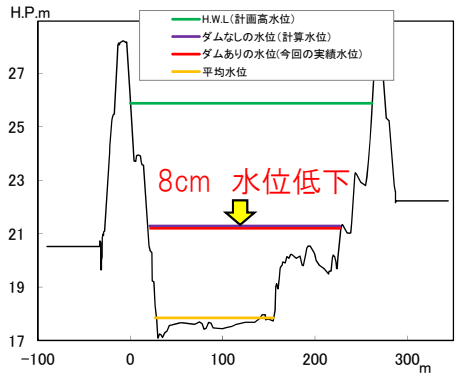
※「防災操作」とは、大雨などによりダムに流入する洪水の一部を貯水池内に貯め込み、放流量を流入量より小さくしてダム下流の河川に流す操作です。

観測所名	ピーク水位低下量(cm)
木次（きすき）	8 cm
上島（かみしま）	8 cm
大津（おおつ）	67 cm
灘分（なだぶん）	87 cm
宍道湖（しんじこ）	26 cm

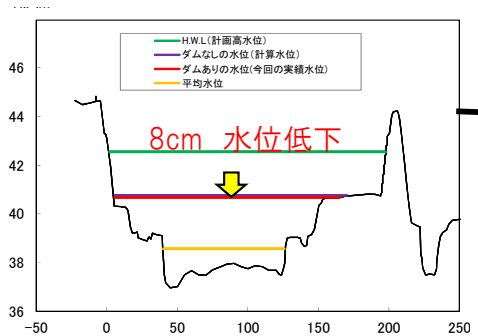
大津

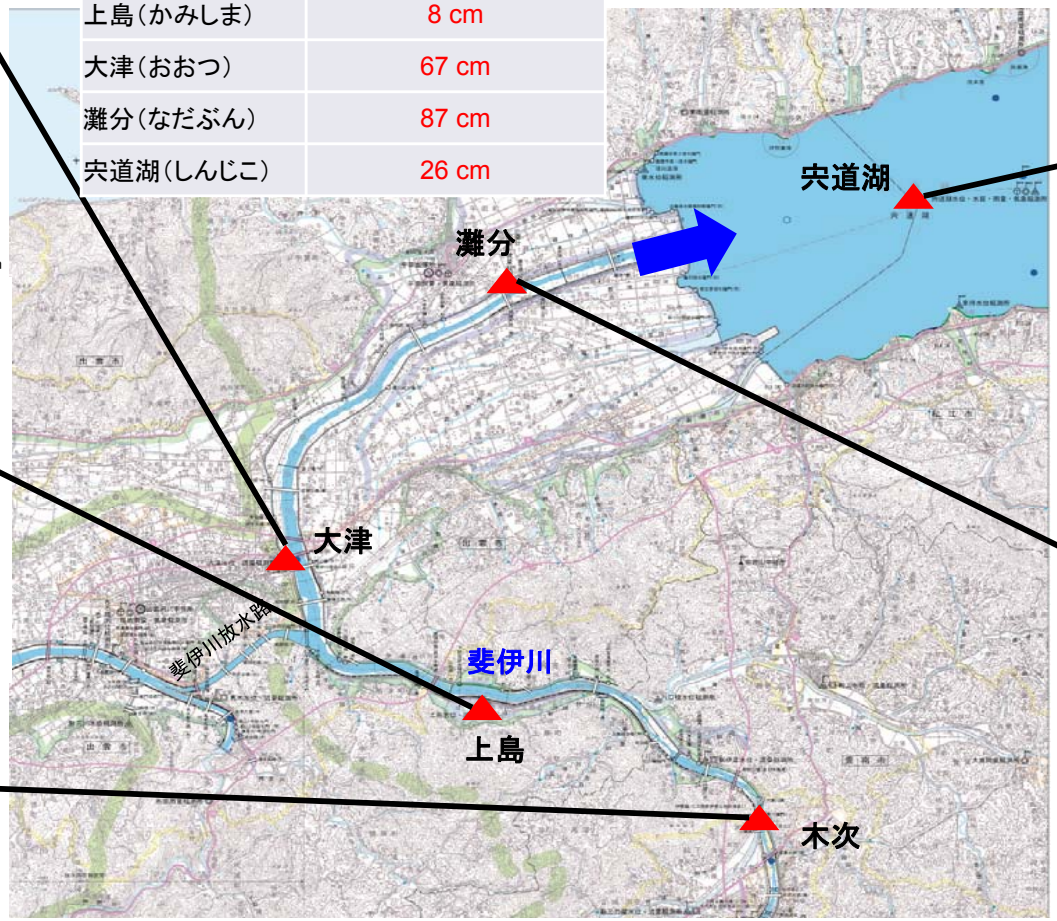


上島

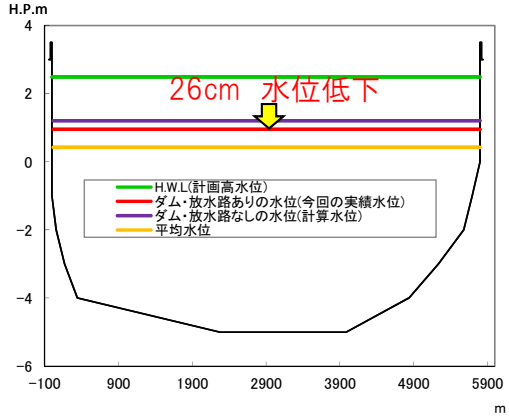


木次

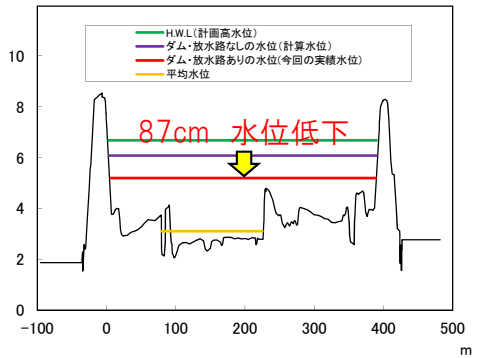




宍道湖



灘分



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。
ダムなし、ダム・放水路なしの水位は推定値です。

斐伊川放水路の整備効果

速　報

○分流堰において、斐伊川本川の洪水の一部を神戸川へ分流し、**斐伊川下流への洪水流量を低減**しました。
なお、今回の分流は**放水路運用後最大の分流量を記録**しました。

＜斐伊川放水路の概要＞

◆斐伊川の洪水の一部を神戸川へ分流し、斐伊川下流への洪水流量を低減させるものです。
◆昭和56年に事業着手し、平成25年6月に完成しました。

＜今回の出水による斐伊川放水路の運用状況について＞

□斐伊川の流量増加に伴い、7月5日19時56分頃に分流堰地点で約400m3/sを超え、斐伊川放水路へ分流（自然越流）が始まりました。

□さらに斐伊川本川の流量が増加し、分流堰地点で約500m3/sを超えたため、7月5日21時20分より分流堰ゲートの倒伏操作を開始。

□7月7日23時5分頃に斐伊川本川の流量が分流堰地点で約400m3/sを下回ったため、ゲートを起立させ斐伊川放水路への分流が終了。

斐伊川放水路分流堰（7/7　6:10）

斐伊川放水路開削部（7/7　6:10）

平成30年7月豪雨　による　斐伊川放水路分流状況

【流量は速報値】

	分流開始	分流終了	斐伊川本川（上島観測所）最大流量	最大分流量
1回目	平成２５年　９月　４日　５時３０分頃	平成２５年　９月　５日　４時１０分頃	約１，２５０m³／s	約　５５０m³／s
2回目	平成２５年１０月２４日　１５時３０分頃	平成２５年１０月２５日　２３時２０分頃	約　５３０m³／s	約　２００m³／s
3回目	平成２６年　８月１７日　１２時５０分頃	平成２６年　８月１８日　０時１０分頃	約　７００m³／s	約　２７０m³／s
4回目	平成２６年１０月１３日　２３時４５分頃	平成２６年１０月１４日　４時５２分頃	約　４４０m³／s	越流のみ※
5回目	平成２９年　９月１７日　２２時２７分頃	平成２９年　９月１８日　１５時４０分頃	約　７５０m³／s	約　２９０m³／s
6回目	平成２９年１０月２２日　２１時３０分頃	平成２９年１０月２３日　１８時１５分頃	約１，２００m³／s	約　４７０m³／s
7回目	平成３０年　７月　５日　１９時５６分頃	平成３０年　７月　７日　２３時　５分頃	約１，５５０m³／s	約　５９０m³／s

※ 堰を越流したのみで、ゲートは倒していません。

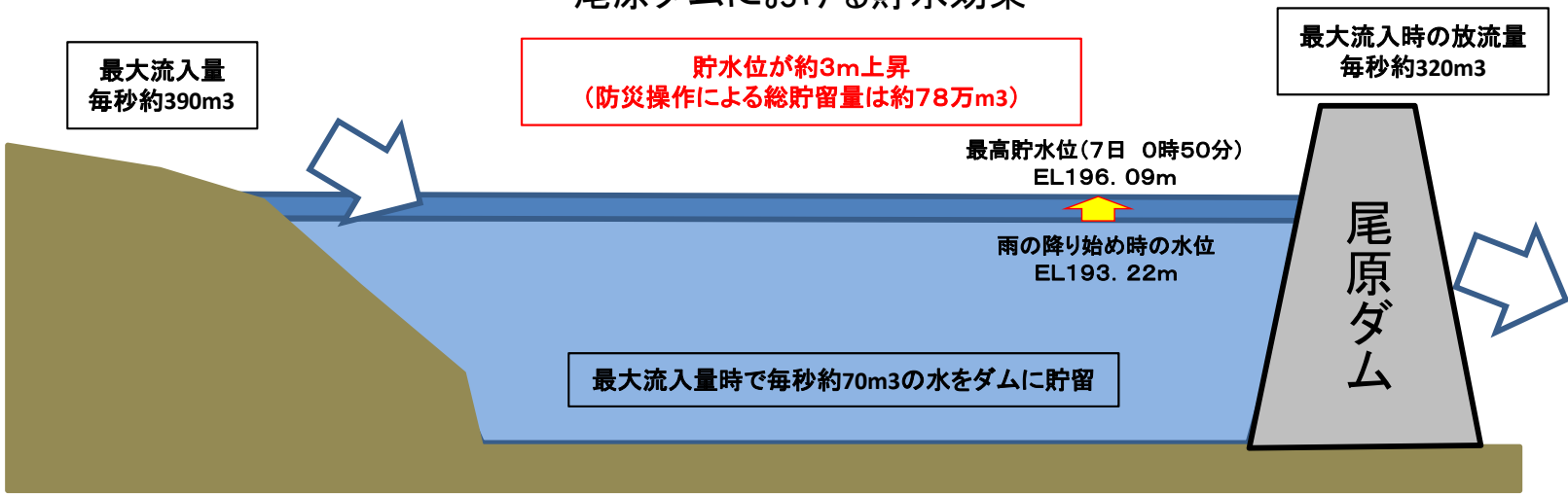
※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

尾原ダムの整備効果

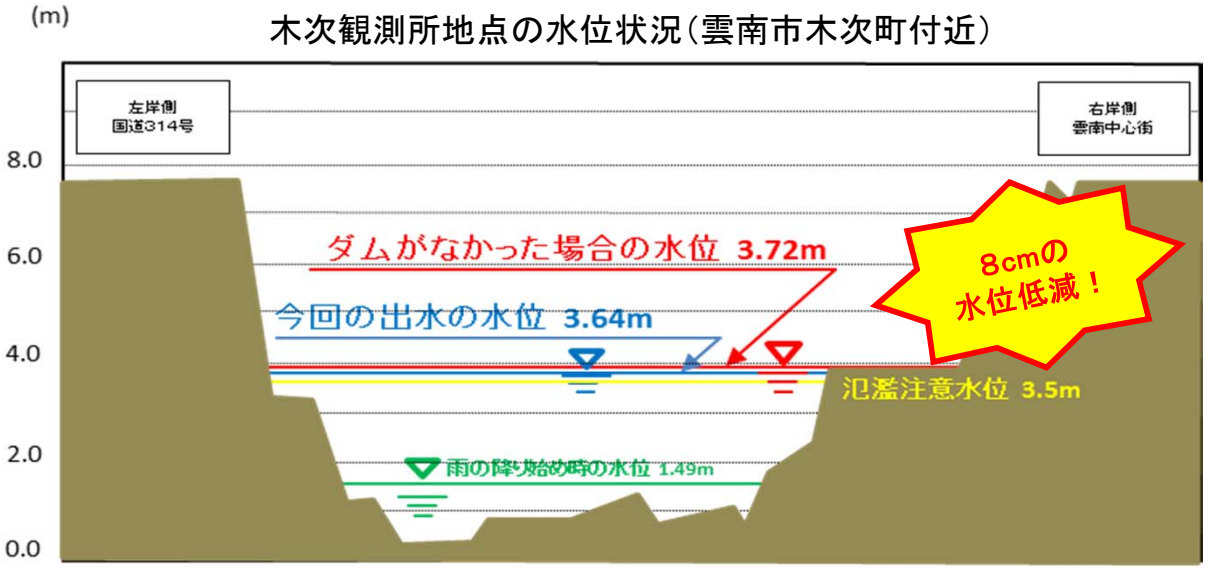
速　報

〇尾原ダム上流では、流域平均累加雨量264mmを記録。
〇今回の降雨によりダムへの流入量が最大で毎秒約390m3に達し、このうち毎秒約70m3をダムに貯留する防災操作を行いました。今回の防災操作により、ダムに貯留した洪水は最大約78万m3（小学校にある25mプール約2,200杯分）です。
〇その結果、ダム下流の木次観測所地点（雲南市木次付近）で、ピーク水位を8cm 低減させる効果があったものと推定されます。
※プールは、幅12m×深さ1.2m×長さ25m＝360m3（立方メートル）で換算

尾原ダムにおける貯水効果



木次観測所地点の水位状況（雲南市木次町付近）



※数値は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。